

ヒドリガモとアメリカヒドリ（カモ科） 全長48センチ

12月上旬、冬鳥が多数飛来する松山公園下の雄物川に向った。

道路下にある小さな中洲と岸辺の間は緩やかな流れで、渡り鳥の中継地点となっているのです。マガモやコガモ、オナガガモと一緒に寛ぐヒドリガモの群れがいた。20羽ほどのヒドリガモに紛れて、珍しいアメリカヒドリを発見。



ヒドリガモ。オスは茶色い頭で額が黄色味。メスは全体が地味です。

オスの側頭部が緑色でヒドリガモと区別されるが、よく観察しないと見過ごしてしまいます。

オスの直ぐそばでメスも見つかった。周りを見渡しても他にアメリカヒドリはいません。日差しを受け、ゆっくりと寛いでいるようだ。クチバシを背中に差し込みお昼寝のようで、なかなか頭をもたげてくれません。



ヒドリガモ。左オス、右メス。



アメリカヒドリ（オス）。目の周りが緑色で、ヒドリガモとは区別できます。

頭部以外はヒドリガモとそっくりで、目をそらさないように追いつけないと見失ってしまいます。メスはヒドリガモとよく似ていて、背中模様でなんとか判別できます。

市街地から近くて、希少な冬鳥と出会えるかもしれない松山公園下。バードウォッチャーお勧めの観察ポイントです。



左上アメリカヒドリのオス。手前左アメリカヒドリのメスは、ヒドリガモのメス（右）よりも背中の模様が細かい。



メスの目は赤い。